

学生を主体とした産学連携による地域振興活動 —住まいと街並みのデザインを通して—

インテリア・住居・建築デザイン領域研究室 (人間生活学部・生活デザイン学科)

学生の描いた住まいや街並みの姿が 企業・地域との連携により現実のものに

本学の生活デザイン学科の一翼を担うインテリア・住居・建築デザイン領域の研究室では、豊かな実績と経験を備えた建築家や専門家による多彩かつ実践的な教育活動を展開しています。

これらの研究室では、長年、建築士課程の在学生による専門資格の取得を目標とした教育活動を展開することにより、卒業後のキャリア形成を支援してきました。近年では、こうした

受託研究のススメ

インテリア・住宅・建築デザイン領域研究室では、企業の皆様とコラボした研究活動として、例えば次のようなご要望にお応えすることが出来ます。まずはご相談ください。



インテリア・住居・建築設計、まちづくり、ランドスケープデザイン、住教育に関する調査研究、企画・提案、設計を行って欲しい。

老朽化が進むアパートや高齢化が進む住宅地の空き家を改修・改装することで、新たな住民を地域に呼び込みたい。

歴史的建築物や景観に関する調査研究、保存・活用のための企画・提案を行ってほしい。

商店街や街の新たなシンボルとなるようなストリートファニチュア、親しみやすく斬新な看板・屋外サイン・壁面などをデザインして欲しい。



図1 「ダイワハウス×広島女学院大学 住宅コラボプロジェクト」最優秀作品2案
上：当時3年生延廣佳苗「shelf corridor」
下：当時2年生福岡直央「MORE PLAY」

従来の取組に加えて、地域を拠点とする企業団体と連携して企画運営する「産学連携プロジェクト」にも積極的に取り組み、学生が在学中から「プロ」としてのスキルと実績、自覚を獲得してゆけるよう、バックアップしています。また、学生のみずみずしい感性を生かした良質な作品を企業団体に提供することにより、近隣地域をはじめとした日本と世界の発展に貢献できるよう努めています。

2017年度には、ハウスメーカーのダイワハウス（大和ハウス工業株式会社）と本学建築士課程との連携による「ダイワハウス×広島女学院大学 住宅コラボプロジェクト」が実現しました。これは、分譲住宅の1階部分をダイワハウスが、2階部分を学生が基本設計を行い、ダイワハウスにより施工、販売するというものです。2年生、3年生

の設計実習履修者合計49名によるコンペ形式により行われました。ダイワハウスのインテリアコーディネーターによる講評会でアドバイスを受けて、作品を完成。学内選考により一次審査を通過した12作品の中から、一般市民による投票で2作品が選ばれました。その後、ダイワハウスの設計者やインテリアコーディネーターとの協議による実施設計（実際に建てるための詳細設計）を経て、2018年4月に着工。学生の思い描いた夢の住まいは、現実のものとして2018年9月に竣工予定です。

また、地域連携の取り組みも実施しています。2015年には、本学の学生がデザインした街路灯が、地元の牛田（うした）商店街の歩道・通称「ほおずき通り」から「牛田大橋通り」にかけて、ほおずき型のLED街路灯24基が設置されました。

翌2016年には、地元の商店街と大学の連携活動の成果として、そのプロセスやコンセプトの一貫性が評価され、広島市主催の「第15回ひろしま街づくりデザイン賞 (Urban Design Award Hiroshima)」の街並み部門賞を受賞しました。



写真1 「牛田商店街街路灯」 当時の3年生（藤田しほり、山縣瑠璃奈、山代優子）によるデザイン。14作品の中から学内及び商店街役員、一般審査を経て選出された。

その他の取り組み

ユニバーサルデザインに関する調査と提案

福祉環境に関する調査にもとづき、バリアフリーマップの作成や改善点の提案等を行うことができます。

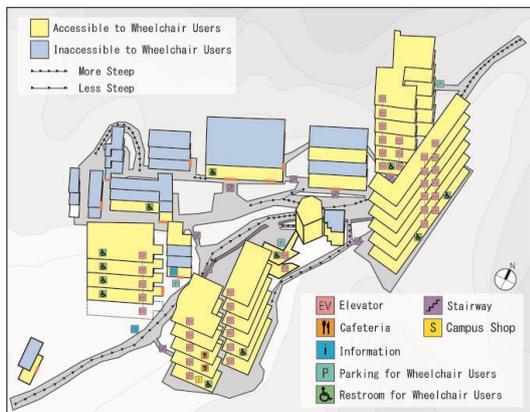


図2 「広島女学院大学バリアフリーマップ」

犬島×廃材×WORKSHOP

過疎化が進む岡山県犬島にて、空き屋の廃材を利用し、家具を制作するWORKSHOPを実施しました（2017年に4回実施）。



写真2 制作風景



写真3 制作したスツール